



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



「高校生によるUDプログラム実践」でUDを区民に広めるプログラムの構築

ユニバーサルデザイン(UD)の基本となる「**人権・尊厳**」「**障害の社会モデル**」「**合理的配慮**」について江東区の「UDまちづくりワークショップ」を通して理解を深めてきました。深川高校の国際協力ボランティア部の部員が区民のWS参加者の方々と協働し、新たな担い手(高校生)に向けて、UDを伝え、**ユニバーサルデザインまちづくり**について理解を深める場(WS)の実践をボランティア部と江東区民WS参加者の皆さんで検討・実践をしています。



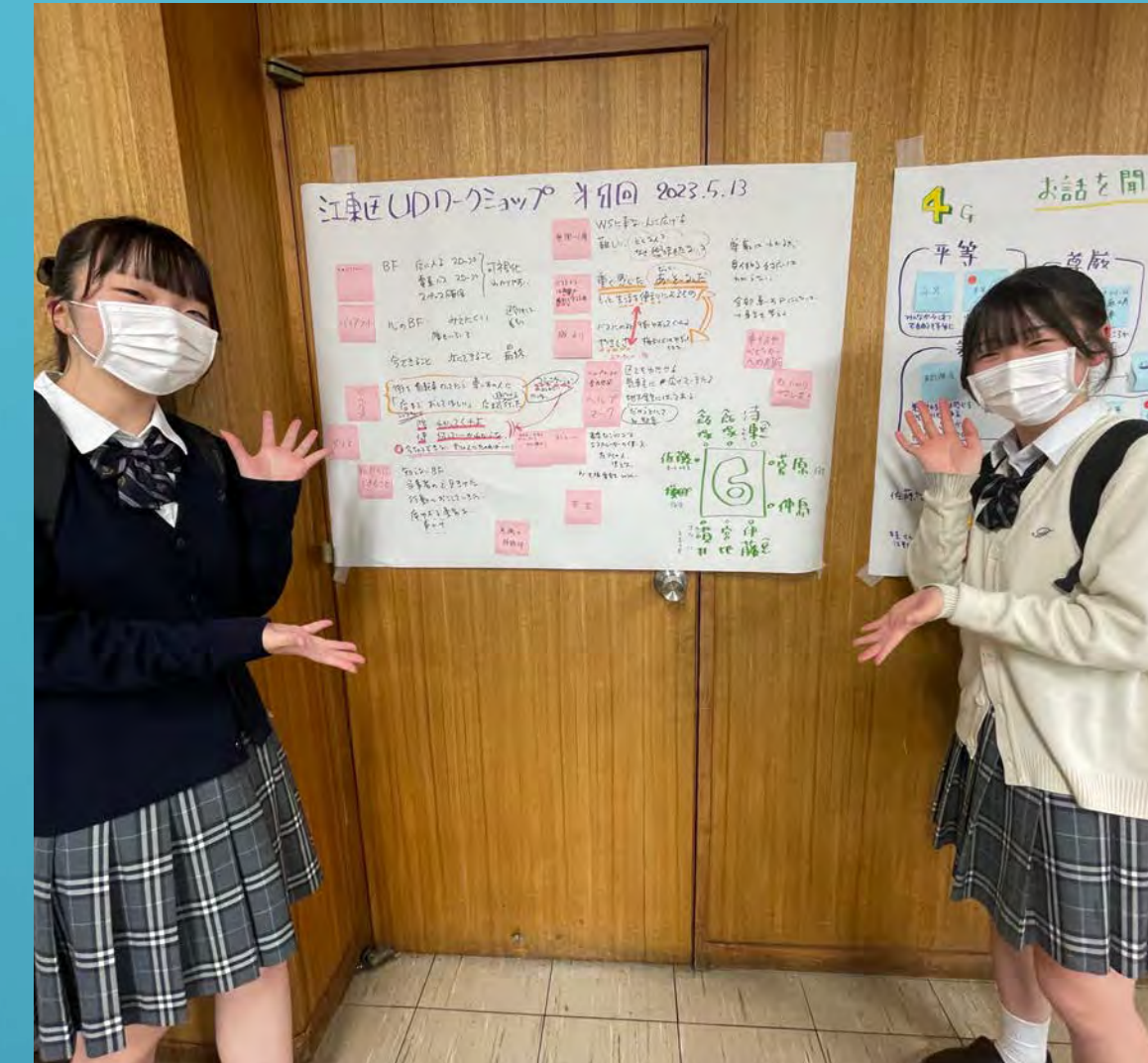
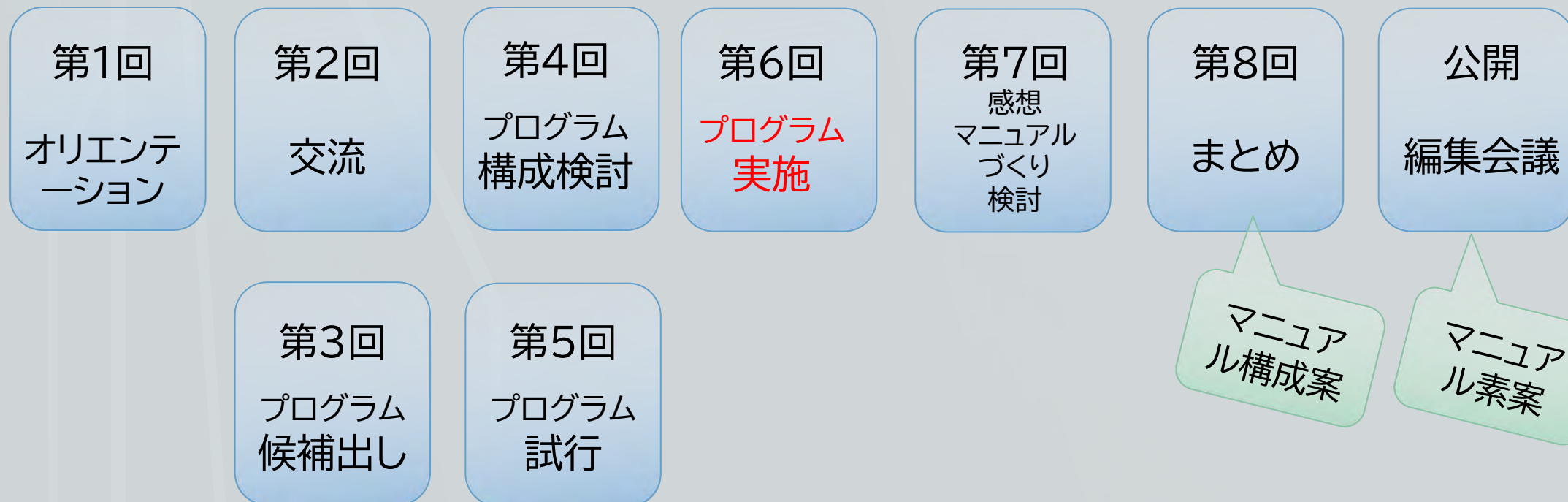
【活動の背景】

私たちの学校のある東京都江東区ではこれまで、ユニバーサルデザインまちづくりを区民と区及び事業者の協働によるワークショップを軸に進めてきました。江東区では平成15年より、区民や在勤の方々の参加を募り、区民・事業者・区が協働で、様々なテーマのワークショップを開催してきました。

【今年度の活動】

今年度は、一昨年度、昨年度で検討してきたプログラムをベースにして、新たな担い手である高校生(深川高校の生徒)に伝える場(高校1年生の授業)を区民の皆さんと国際協力ボランティア部の部員で実践していきます。そして、プログラムの実施後は、まとめWSを通してプログラムをマニュアル化し、地域の学校やイベントの場でUD出前授業を実施できるよう準備を進めたいと考えています。

【今年度の予定】



【私たちが目指すこと！】

新たな担い手(高校生)にUDについてわかりやすく伝え、知ってもらう！

ワークショップを通してユニバーサルデザインの基本原則やUDまちづくりに関する具体的な事例を説明し、参加者(ボランティア部員、WSに参加している皆さん)が自分の身の回りで起きている状況について共有し、理解を深めることがとても大切です。



そのために！！

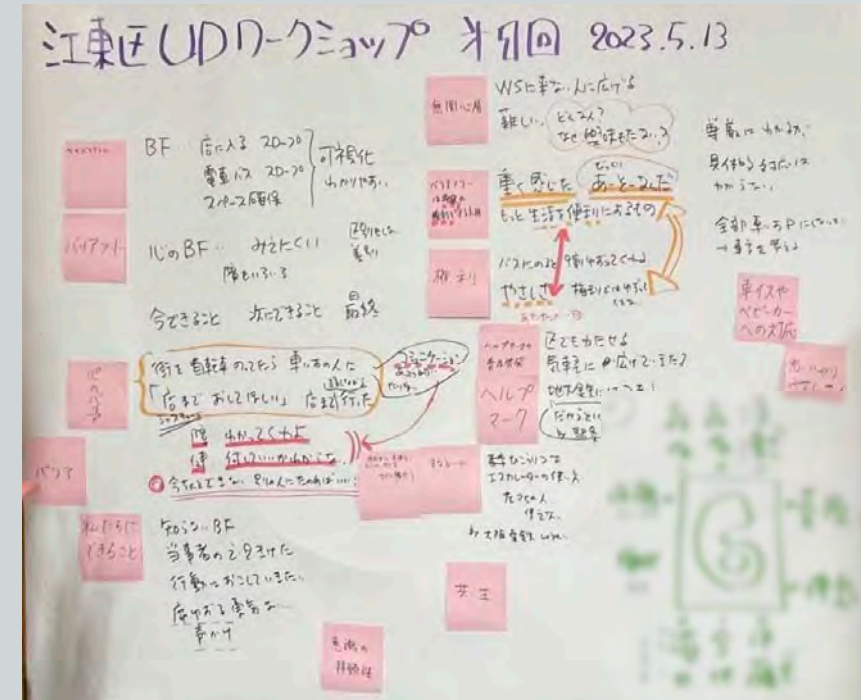
参加者同士の情報共有の充実:ワークショップでは参加者同士が情報を共有し、意見や経験を交換することができます。他の参加者の視点やアイデアに耳を傾け、議論に参加することによって新たな洞察を得ることができます。

ワークショップへの参加によって:ワークショップで参加者はユニバーサルデザインの原則や手法を実際に試す機会を得ることができます。自分で課題を作成したり、アイデアを出したりすることで、ユニバーサルデザインへの理解がより深まります。

深川高校で行うプログラムの検討によって:プログラムの検討において、過去のプログラムの成功事例や失敗事例が取り上げられることがあります。WS参加者はこれらの事例を分析し、どのような要素が成功に繋がったか、または問題が生じた原因は何かを考察することによってより良いプログラムを検討することができます。

コミュニケーション豊かなワークショップ:参加者との議論のなかで自分の疑問や意見を述べることで、より具体的な情報や洞察を得ることができます。

参加者同士の積極的なコミュニケーションによって、ワークショップでの相互理解を深めることができるはず！



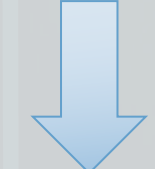
*江東区、区民、事業者、高校生の協働のイメージ

*ワークショップで使用したマインドマップ

【キーワード】

誰もが使いやすいまちを作る！

江東区が目指すUDまちづくり



UDまちづくりとは？

年齢・性別・国籍・能力などの違いを尊重しつつ、**だれもが使いやすい安全で安心な環境**をつくるため、区と区民および事業者が**協働**ですすめるまちづくりです。UDまちづくりでは、年齢、性別、能力、身体的な制限などに関係なく、誰もが自由に参加し、利用できる環境を作り出すことを目指しています。

11 住み続けられるまちづくりを



10 人や国の不平等をなくそう



みんながWSに参加できるようにUDトーク®を活用！

UDトーク®は、音声をテキストに変換することで、コミュニケーションの壁を取り除くことができるアプリです。聴覚障害者の人々もWSに参加できるように文章構成を行なっています。UDトーク®を使用してWSの進行や重要な情報を提供しています。アプリを介してリアルタイムのテキストコミュニケーションを行い、すべてのひとがセッションに参加し、情報を理解できるように支援をしています。



WSでは、UDトークを活用しています。



【今後の展望】

1.今年実践したプログラムのマニュアル作成:今年度実践することを、他の学校や団体においてもトライできるように、マニュアルの作成を行います。このマニュアルは、プログラムの目的、参加者へのアプローチ方法、実施手順など、具体的な手法について記載し、誰でも実践できるようにしたいと考えています。

2.今年度の活動のまとめ、マニュアルの補完のための動画作成:活動のまとめだけでなく、補完的な学習リソースとして動画を作成します。動画にすることによって、視覚的に理解しやすい形式でプログラムの内容を伝えることができます。例えば、実際のワークショップのシミュレーションや参加者のインタビューを交えた動画を作成することで、より具体的に実践的な知識を提供できます。動画はオンラインプラットフォームやソーシャルメディアを通じて広めることもでき、より多くの人にアクセスしてもらえるような工夫もしたいです。

3.江東区内の学校での実施:マニュアルと動画を活用し、江東区内の学校の文化祭や授業でプログラムを実践したいと考えています。学校は未来の担い手たちが集まる場所であり、より多くの人にユニバーサルデザインについて知ってもらうことができると思います。

【主催・協力】

江東区都市整備部都市計画課・場所づくり研究所プレイス
アドバイザー 川内美彦(アクセシビリティ研究所主宰・東洋大学人間科学総合研究所客員研究員)

*このポスターは、多くの人が読みやすいようにUDのフォント(BIZ UDゴシック)を使用し、作成しました。



深川高校国際協力ボランティア部

深川高校国際協力ボランティア部では、青少年赤十字に加盟しており、クリーンプロジェクト、携帯トイレの啓発活動やルンパドも支援資金などの活動を軸に、地域や、国際的な問題に対する啓発活動などさまざまな活動に取り組んでいます。昨年度の活動としては、フェアトレードの啓発活動としてフェアトレード紅茶を使用したクッキーをフェアトレードについてまとめたチラシと共に校内で配布をしたり、千葉県南房総市の海岸におけるビーチコーミング・清掃活動、近隣の高校と協働で商店街活性化モデルの構築、こうとうこどもまつり(江東区)運営手伝いなど行いました。活動発表会にてこれらの活動を定期的に紹介をしています。これらの活動をきっかけに、たくさんの同世代の若者が地球全体の問題について強く深く関心を持ってほしいと願っています。